

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立姿川第二小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

4 本校の参加状況

- | | | | |
|-------|------|-----|------|
| ① 国語A | 115人 | 国語B | 115人 |
| ② 算数A | 115人 | 算数B | 115人 |
| ③ 理科 | 115人 | | |

5 留意事項

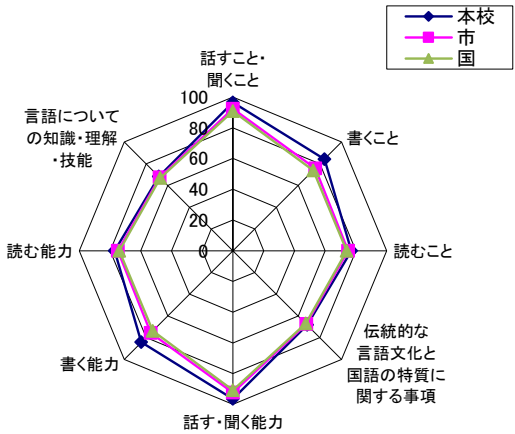
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立姿川第二小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

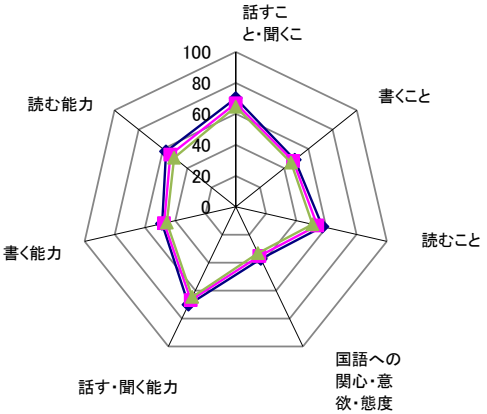
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	96.5	92.4	90.8
	書くこと	84.3	75.7	73.8
	読むこと	77.0	74.9	74.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.3	67.5	67.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	96.5	92.4	90.8
	書く能力	84.3	75.7	73.8
	読む能力	77.0	74.9	74.0
	言語についての知識・理解・技能	68.3	67.5	67.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	70.1	66.8	64.6
	書くこと	48.7	47.4	45.6
	読むこと	57.4	54.0	50.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	37.4	35.2	33.2
	話す・聞く能力	70.1	66.8	64.6
	書く能力	48.7	47.4	45.6
	読む能力	57.4	54.0	50.8
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

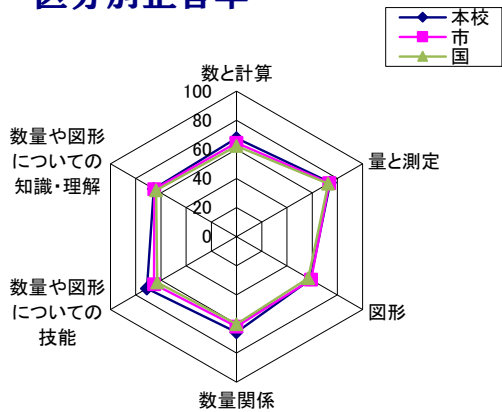
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は国語A、Bともに全国平均、市の平均を上回っている。 ○相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例を挙げながら筋道を立てて話すことについて、理解ができています。 ●相手の話の内容を十分聞き取り、自分の考えと比べ、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理し、自分の考えをまとめることに、課題がみられる。	・司会者や提案者、参加者などの役割に基づいて、立場や意図を明確にしながらかい活動ができるようにする。 ・国語の時間だけでなく、特別活動や他教科でも話合い活動を計画的に取り入れ、話合いの目的や話合いの進め方などを意識して活動ができるようにする。 ・話合い活動では、互いの考えの共通点や相違点を意識できるような視点を示すなど、指導方法を工夫する。
書くこと	平均正答率は国語A、Bともに全国平均、市の平均を上回っている。特に国語Aは平均を大幅に上回っている。 ○目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして詳しく書くことについてはよくできている。 ○自分の想像したことを物語に表現するために文章全体の構成を考えることはよくできている。 ●自分の意見を述べるときに、文章全体の構成の効果を考えることには、やや課題がみられる。 ●話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめて書くことに課題がみられる。	・相手に分かりやすく伝えたり相手の理解を助けたりするためにはどのような構成が効果的であるか考えられるようにいくつもの例を提示するなど指導方法を工夫する。 ・総合など他教科においても、目的や意図に応じて取材した事柄の中から、事実と感想、意見などを区別し、新聞やリーフレットなど文章の種類や特徴を踏まえるとともに、内容や分量などを考えながら書くという学習活動を取り入れ、指導していく。 ・話合い活動の中で、相手の意見と自分の意見との共通点や相違点を整理して書き出す活動を取り入れる。相手の意見を聞いて考えたことや、共感したり納得したりした内容や事例を取り上げるなどして、自分の考えを筋道を立ててまとめることができるように指導方法を工夫する。
読むこと	平均正答率は、国語A、Bともに全国平均を上回っている。 ○目的に応じて必要な情報を捉えて読む問題の正答率は79.1%で国より5.2ポイント高く、よくできている。 ●伝記「湯川秀樹」から、心に残ったことについて自分の考えを明確にしながらかいことができるかをみる問題の正答率は60.9%と国の平均より8.6ポイント高い。しかし、無回答率において13%と他の設問の平均より高く課題である。	・図鑑や事典、説明書の記述などから自分が知りたい情報を見つけて読む活動を増やしていく。また、必要な情報を得るための方法を他教科等の学習活動に生かし、さらに力を伸ばしていく。 ・伝記や物語を読む機会を増やし、自分の考えをもって物語を読み、互いの考えの共通点や相違点を伝え合い、自分の考えを広げたり、深めたりするように指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は全国平均と比べ、やや上回っている。 ○日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使うことには成果が見られる。 ●文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことには、課題が見られる。	・国語辞典やことわざ辞典などを日常的に活用できるように今後も指導していく。 ・文章を視写することで、文の構成を理解できるようにする。表現する時だけでなく、文章を読むときにも構成を強く意識できるように指導する。自分で書いた文章を主語と述語との関係に注意しながら、丁寧に読み返していく習慣を付けるよう指導していく。

宇都宮市立姿川第二小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

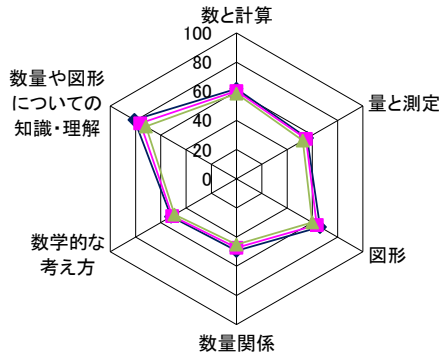
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	67.7	64.5	62.3
	量と測定	74.3	73.6	72.7
	図形	58.8	59.1	56.9
	数量関係	65.7	61.8	60.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	71.1	65.5	63.0
	数量や図形についての知識・理解	65.7	65.3	63.8



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	61.7	60.2	58.4
	量と測定	55.9	55.0	52.4
	図形	66.1	63.5	59.9
	数量関係	49.4	47.3	45.1
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	51.9	51.0	49.2
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	80.9	76.2	71.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

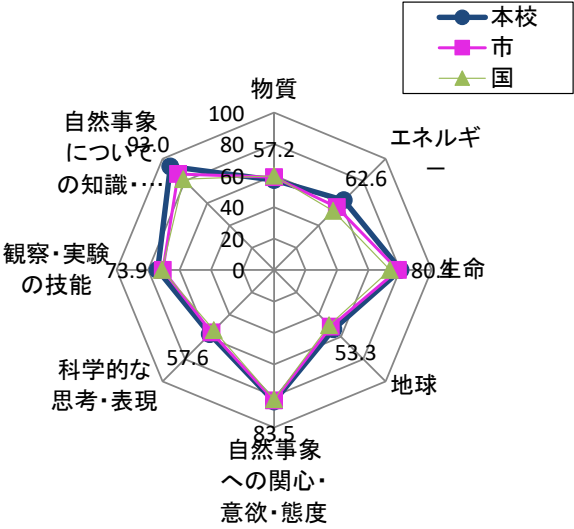
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	多くの問題において、正答率は、全国平均を上回った。 ○長さや重さの関係図や数値の大小を考えさせる場面では、見誤ってしまいそうな問題にも落ち着いて解答しているといえる。 ●B問題の折り紙を4色使って輪飾りを作る問題では、全国平均より5.6ポイント下回っている。	・今まで行ってきた朝の計算学習や計算テストをこれからも継続して行っていく。 ・授業において、図や表を用いて考えさせる工夫をできる限り行っていく。 ・6年生でも具体物や半具体物を使い、実感させてから立式させる作業を意識して行っていく。
量と測定	A・Bどちらの問題も、ほとんどの設問において全国平均を上回っている。 ○特にA問題の、「面積が同じ2つのシートの込み具合について求める問題」では、全国平均を5.2ポイント上回っている。また、B問題の玉入れゲームの時間の問題の正答率は、全国平均を11.2ポイント上回った。 ●逆に、単位量あたりの大きさを求める除法の式と商の意味についての問題は、全国平均を9.2ポイント下回った。	・測定値の平均や人口密度など、単位量あたりの大きさ(異種の二つの割合)としてとらえられる数量について、長さや重さのように量と対比させたり、面積をそろえて人数で比較したりするなど、具体的な場面から児童自身が答えを見いだせるような学習活動を工夫していく。 ・「単位量あたりの大きさ」では、「もととなる1」が何かをよく考えさせることで、求めたい答えの見当がつくように指導する。 ・図表や絵、グラフ、数直線などを積極的に活用して、問題の意味を読み解いたり、立式に役立てたりする。
図形	平均正答率は、A、Bともに全国平均を上回っている。 ○算数Aの円の直径の長さや円周の長さの関係を問う問題では、全国平均を5.3ポイント上回っている。 ○算数Bの合同な三角形で敷き詰められた模様の中から条件に合う図形を見出す問題では、全国平均を9.2ポイント上回っている。 ●算数Aの空間の中にあるものの位置を正しく書く問題では、全国平均を若干下回っている。	・図形に関する知識、理解がしっかりと定着しているもので、今後も、基礎的・基本的な内容の定着を図る学習を継続的にしていく。 ・立体図形の学習において、具体物を用いて構成活動を行うなど、視覚的に位置関係を捉えられるようにする。
数量関係	平均正答率は、算数A、Bともに全国平均を上回った。 ○算数Aにおいては全国平均を5.6ポイント、算数Bにおいては4.3ポイント上回っている。特に算数Bにおける、示された考え方を解釈し、ほかの数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を見出す問題では、全国平均を11.2ポイント上回っている。 ●算数Bにおいて、メモの情報と関連づけてグラフを読み、総数や変化に着目していることを理解し、記述する問題では、正答率の平均は国を上回るものの、無回答率が国よりも高い。	・今後も、基礎的・基本的な内容の定着を図る学習を継続するとともに、習熟度別学習を生かして個に応じた問題解決力が身につくよう、指導の充実を図る。 ・日常的な事象を、グラフの特徴を基に、複数の観点で考察したり表現したりすることができるようになるために、基礎的なグラフの読み方の復習とそれぞれがグラフから読み取った情報について意見を出し合う活動を取り入れた学習を充実させる。

宇都宮市立姿川第二小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	57.2	59.0	59.8
	エネルギー	62.6	56.4	53.1
	生命	80.4	78.6	73.6
	地球	53.3	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	83.5	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	57.6	56.1	54.1
	観察・実験の技能	73.9	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	93.0	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	平均正答率は、全国平均よりも低く、他領域と比較しても下回っている。 ○ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気づき、適切に操作する方法を選ぶことはよく理解している。また、複数の異なる方法の実験結果を分析して考察することについては、おおむねできている。 ●ものを水に溶かしても全体の重さは変わらないことを理解し、食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用することに課題がある。また、実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述することに課題がある。	・既習事項を意識しながら、見通しをもって観察や実験を通した問題解決に取り組む学習活動を展開していく。 ・児童が観察、実験などの結果を整理し、考察、表現する活動を多く取り入れるようにするとともに、実感を伴った理解を図る学習活動を重視する。 ・学習した内容が実際の生活の中に生かされている場面を示したり、考えたりする学習活動を充実させることで、得た知識を活用する力を育てる。 ・グラフの全体的な傾向や、大きく数値が変化するところはどこかなど、視点を与えてグラフを読み取る活動を取り入れる。また、グラフから読み取れるいくつかの情報を関連付けて考えることができるようにする。
エネルギー	平均正答率は、全国平均よりも高い。 ○どの設問においても、全国や市の平均を上回っている。 ○回路を流れる電流の向きと大きさについて、実験結果から考え直した内容を選ぶ問題の正答率は73%と全国より13.6ポイント高い。実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考えに改善できる児童の割合が高いことがうかがえる。	・「電流の向きと回路のつながり」「電流の向きと大きさ」「太陽の1日の位置の変化と光電池について」など、電気の働きについてよく理解できている。今後も、学んだことを基にしたものづくりを行う活動や実験など、児童が興味・関心をもって取り組めるよう、また児童が目的意識をもって活動に取り組むことができるよう指導していく。
生命	平均正答率は、市や国の平均よりも上回っている。 ○腕を曲げることのできる骨と骨のつながり目を表す言葉を書く問題の正答率は96.5%と良好であった。 ●人の腕が曲がる仕組みについて、示された模型を使って説明できる内容を選ぶ問題の正答率は、市や国よりも上回っているが、66.1%である。	・科学的な言葉や概念はきちんと理解できているので、今後も視覚的に捉えさせるとともに言葉が結び付いていくような指導をしていく。 ・人の腕が曲がる仕組みを模型に適用するなど、応用を効かせた問いに対応できるように、実際に触って確認できたり、視覚的に捉えられたりできるような授業内容の工夫をしていく。
地球	平均正答率は、市や全国の平均よりも高い。 ○流れる水の働きによる土地の浸食について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、斜面に水を流したときの立てた棒の様子を選ぶ問題の正答率は、国の平均より12.4ポイント高い。 ●一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだ理由を記述する設問の正答率は19.1%と低い。実験結果を基に考察し、その内容を記述することに課題がある。	・地面を流れる水や川の様子を観察したり、流れる水の速さや量による働きの違いを調べたりする活動を通して、流れる水の働きと土地の変化の関係についての考えをもつことができるよう指導する。その際、野外で直接観察したり、人工の流れをつくったモデル実験などを取り入れたりして、観察・実験の結果と実際の川の様子を関係付けて捉えることができるよう、生活と関連付けながら流れる水の働きについて理解できるよう指導していく。

宇都宮市立姿川第二小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「学校のきまりを守っていますか」の設問に、肯定的に答えた児童の割合は、全国平均よりも高い。規範意識や自己有用感が身に付いていると言える。

○「朝食を毎日食べているか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ているか、起きているか」の設問に、肯定的に答えた児童の割合は、全国平均よりも高い。特に、寝る時刻については5ポイント以上高く、基本的な生活習慣が意識付いていると言える。

○放課後の過ごし方では、「学習塾など学校や家以外の場所で勉強している」割合が、全国平均より高い。また週末の過ごし方でも、「家族と過ごす」と答えた割合が、全国より大幅に高い。教育に協力的な家庭が多いことがわかる。

○学習習慣については、「家で自分で計画を立てて勉強している」「家で学校の授業の予習復習をしている」と答えた児童の割合が全国平均よりも高く家庭学習への意識が高い傾向にある。家庭学習の啓発が効を奏していると考えられる。

○「5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う」の設問は、87%以上の肯定的回答があり、全国平均より高い。本校の特色でもある地域と関わる教育活動の成果が表れている。また、「今住んでいる地域の行事に参加している」「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」の設問の肯定的回答は全国平均より高く、児童の生活が地域に根差しており、地域や社会への関心が高いことが分かる。

○算数や理科の学習や授業に対する質問について、肯定的な割合が全国平均より高い。特に、算数の学習が将来役に立つと思っている児童の割合が多く、学習の大切さについて考えている。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と答えた児童の割合は8割を超え、全国平均よりも高い。

●「学校の授業以外に、1日当たりどれくらいの時間勉強をするか」の問いには、1時間以上勉強している回答が全国平均より低く、家庭学習にかけられる時間を見直していく必要がある。

●放課後の過ごし方では、「家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている」と回答した児童の割合が、平日で86.3%、週末で91.5%と高く、今後もゲームやインターネットについて、使い方や悪い影響等、家庭に情報を提示し、協力を呼び掛けて行く。

●「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」の設問に肯定的に答えた割合が、全国平均より20%近く低く、今後ボランティア活動への働きかけをして行く必要がある。

●「新聞を読んでいますか」の設問に肯定的に答えた割合が、全国平均より4ポイント以上低く、学校の教育活動や、家庭への働きかけなどで、新聞を読む機会を増やしていく必要がある。

●「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。」についての肯定的回答が、全国平均は上回っているが、「当てはまらない」と答えた児童も4.5%おり、様々な形態の問題に取り組ませ、抵抗感なく取り組めるように指導していきたい。

●「理科の授業で、理科室での観察や実験をどのくらい行いましたか」については、「週1回以上」が全国よりかなり低く、「月1回以上」が74.4%と最も多い。もっと多くの機会を取り入れるようにしたい。

●各教科の調査問題の解答時間については、「足りない」と答えた割合が全国平均より上回っている。これは、「読む力」が弱く、問題量に追いつけていないことが考えられる。日頃から、文章を読む機会を設け、読書を奨励し、「読む力」の底上げを図ってきたい。

宇都宮市立姿川第二小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	各教科の授業において、めあての明示から学び合い・まとめ・振り返り等、児童が「見通し」を持って学習に取り組むことができるように指導している。また、学習内容の定着を図り、次の学習への意欲につなげていけるように、振り返る活動を大切にしている。	「算数の勉強は好き」「理科の勉強は好き」の質問に肯定的に回答している児童の割合は、全国平均より高く、学習意欲について良好な結果が見られた。また、「算数の授業の内容はよく分かる」「理科の授業はよくわかる」と肯定的に回答した児童の割合も、全国平均より高く、学習内容の定着が図られている。
読解力、思考力、表現力の伸長	授業で多様な形態で自分の考えを発表したり、ノート等に自分の考えを文章でまとめていく時間を確保するなど、話す・書く活動を充実させていく。また、音読の重視と工夫、短作文指導を通して、読解力や思考力の育成を図っていく。	「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と肯定的に回答した児童の割合は全国平均より高い。また、国語B「目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」設問の正答率は全国平均を上回っているが、無回答率も高い。
家庭学習の習慣化	各学年の発達段階に応じて、家庭学習の内容や分量を工夫している。また、保護者にも各学年に合わせた「家庭学習の手引き」や、学習指導だより等を配布し、家庭学習への取組について協力を呼びかけている。	「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」の設問に肯定的に答えた児童の割合は76.1%で、全国平均よりも高い。また、「家で、学校の授業の予習・復習をしている」と答えた児童の割合も全国平均を上回り良好である。平日の学習時間において「全くしない」と回答した児童もいなかった。今後も引き続き家庭学習について呼びかけていく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・放課後の過ごし方では、「家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている」と回答した児童の割合が、平日で86.3%、週末で91.5%と、全国平均を上回り、課題が見られる。 ・平日の学校の授業以外で「読書を全くしない」と回答した児童は21.4%でその割合は全国平均より高い。	・ゲームやインターネットについて、使い方や悪い影響等について情報を提示し、協力を呼びかけていく。 ・図書館の活用や家読の推進など、読書活動を推進していく。	・学級懇談や学習指導だよりなどを通じて、家庭に対して適切な使用方法や使用時間について啓発していくと同時に、児童に対しても学年の実態に応じて段階的に、適切な使い方について指導をしていく。 ・様々な分野の本を読んだり、本や辞書などを活用した調べ学習を取り入れるなど、読書活動を通して、本を読む楽しさを味わわせるとともに、自ら学ぶ力を育てていく。